

研究分野	海洋構造	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研究事業名	陸奥湾海況自動観測		
予算区分	研究費交付金(産技センター)		
研究実施期間	H19～H28		
担当者	田中 淳也・小泉 広明		
協力・分担関係	なし		

〈目的〉

海況自動観測システムと茂浦定地観測によりホタテガイ等重要水産資源の漁業生産基盤である陸奥湾の海洋環境、漁場環境のモニタリングを行い、得られた情報を陸奥湾海況情報として提供する。

〈試験研究方法〉

観測期間等：ブイー平成21年1月～12月の毎時連続観測、定地観測－平日午前9時

観測地点と内容：図1及び表1のとおり

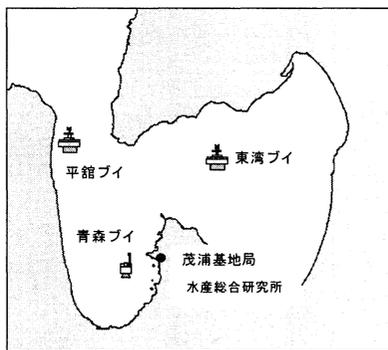


図1 観測地点

表1 観測項目

観測地点	観測水深	観測項目						
		水温	塩分	溶存酸素	流向流速	気温	風向風速	蛍光強度
平館ブイ	1m	○	○		4, 6, 8, 10,			
	15m	○	○		15, 20, 25,			
	30m	○	○		30, 35, 40m			
	45m(底層)	○	○		の10層			
青森ブイ	1m	○						
	15m	○						
	30m	○						
	44m(底層)	○						
東湾ブイ	海上約4m					○	○	
	1m	○	○		4, 6, 8, 10,			○
	15m	○	○		15, 20, 25,			
	30m	○	○		30, 35, 40m			
	48m(底層)	○	○	○	の10層			
茂浦	表面	○	○(比重)			○	○(風力)	

〈結果の概要・要約〉

システム全体の年間データ取得率は97%、項目別では溶存酸素が86%、水温および塩分が96%、その他は99%以上であった。主な観測項目に関しては以下のとおりであった。

- 1) 水温：2月、4月、5月は全層で平年より1～2℃高く、7月には15m層以深で1～2℃高かったが、8月～9月には30m層以浅で1～2℃低くなった。
- 2) 塩分：平館ブイでは夏季に平年偏差+0.4～-0.4と大きく変動したが、そのほかは平年並みだった。東湾ブイでは1月～4月に高めになり、それ以降は変動が大きかった。
- 3) 流況(平館ブイ)：通年南北流が卓越した。15m層では1月～5月に南下流が比較的多く、5月以降は南北での変動が多かった。底層では南下流が卓越し、特に5月～10月まで南下流が強勢であった。
- 4) 酸素飽和度：30m層では大きな低下はなかったが、底層では7月下旬から急激に低下し始め、10月上旬に飽和度が26%と最低になり10月中旬から回復に転じた。
- 5) 蛍光強度：1月～2月が高く、3月～10月が低く、11月以降は上昇傾向であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

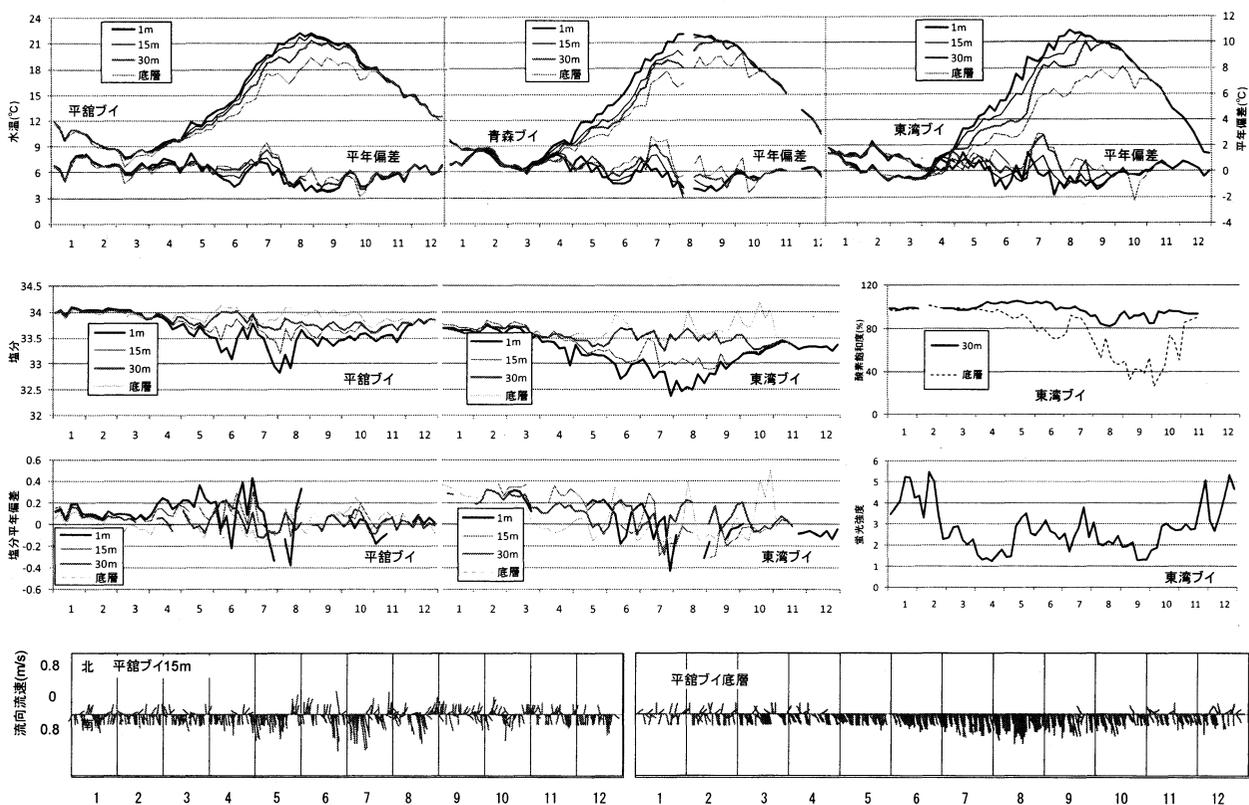


図2 主要項目の観測結果

上段左から順に、水温と年平均偏差、塩分、溶存酸素飽和度、塩分年平均差、蛍光強度、日合成流を示す。

〈今後の問題点〉

システム運用計画に基づき、より効率的・経済的な運用方法の検討を継続する必要がある。

〈次年度の具体的な計画〉

引き続き全項目を観測することとし、システムの適切な保守・運営を行いデータ取得率や情報提供率の目標(各95%、100%)を達成できるよう実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ホームページ上で毎時観測結果を即時公表した。
- ・陸奥湾海況情報(毎週水曜日、漁業関係機関等28ヶ所にメールおよびFAX送信、HP掲載)を発行した(3月15日現在、通算47号発行)。
- ・ホタテガイ情報会議等において最新の海況情報を発表したほか、その他機関にデータを提供した。